

津波漂流物の影響評価技術の体系化WGの技術文書 原子力土木委員会における総合評価

- 2025年11月13日 原子力土木委員会メンバーにEメールにて標記技術文書に対する技術文書審議タスクの評価結果を連絡。アンケート調査にて、評価結果を承認に関する審議を開始（～2025年12月12日）
- 結果：委員総数37名のうち、技術文書審議タスク、津波評価小委員会、津波漂流物の影響評価技術の体系化WGの関係者5名を除いた32名中、26名の委員より「賛成」を得た。委員総数の2/3以上（22名以上）の賛成を得たので、技術文書原案に対する技術文書審議タスクの評価結果は承認された。

アンケート内容・結果

技術文書の総合評価（技術資料・津波漂流物）

技術文書審議タスクの評価結果、および技術文書原案を踏まえ、技術文書原案の総合評価として、技術文書審議タスクの評価結果への賛否について、以下に入力してください。

1. お名前を入力してください。
2. 技術文書審議タスクの評価結果への賛否を入力してください。賛成／反対
 - ▶ 有効回答数 26（内訳：賛成 26、反対 0）
3. 賛否への意見など
 - ▶ 技術審議タスクにおいて、津波漂流物としての適用範囲の明記や用語の適正化等有用な議論の上で、有用性あるという評価を得ており、その結果を追認する。
 - ▶ 本編、付属編ともにユーザーが使用性に配慮され、分かりやすい記載であると思います。なお、一部の図面で不鮮明なものについては極力鮮明にして頂くと良いと思います。
 - ▶ 津波被害軽減、重要施設に対する致命的な被害を避けるための、様々な対策を講じるうえで重要かつ想定が困難な漂流物に対して、一定の成果をまとめられた資料と考えます。重要施設等の検討に使われることで、さらに実用性と完成度を上げていくための課題がでてくることになり、次の発展につなげていくことが重要と考えます。
 - ▶ 技術文書審議タスクの評価結果、技術文書原案を踏まえ、技術文書原案の総合評価として賛成します。
 - ▶ 不確実性が多い課題であるが、何らかのアプローチは必要で、そういう意味では、有意義であると思うので、賛成である。ただ、さらなる不確実性の低減やほかのアプローチへの取り組みが引き続き必要である。
 - ▶ 技術的に妥当と判断致しました。
 - ▶ タスクへの対応も含めて適切に行われていると思います。